

公益信託世田谷まちづくりファンド

第30回助成事業 審査講評

つながりラボ部門

< 7-1 一般社団法人シモキタ園藝部 >

- ・少し前の下北沢駅前のごちゃごちゃした感じ、今でも思い出します。それが「循環」「多様性」「コミュニティ」をコンセプトに生まれ変わった背景には、貴グループのような団体の貢献があったのですね。下北沢という魅力と市民力が溢れる街ゆえ、まちづくりに関与する人たちを一方に揃えるのは難しいかもしれませんが「三人寄れば文殊の知恵」ですし、「船頭多くして船山に登る」とならないように気をつけないければなりません、上記コンセプトを取り入れるのであれば、やはり対話と連携は必須と考えます。近いうちに下北沢を再訪します！

< 7-2 NPO法人子育て支援グループ a m i g o >

- ・「地域住民のネットワークを作り、まちの声を反映する公園整備につなげるため」の「つながりラボ」部門への申請、とのことですが、そうした整備のあり方や、さらには地域住民が関わっての公園の運営、については昨今、あちこちで試行錯誤がなされていることと思います。先行事例を見ても、簡単ではないこと、一筋縄ではいかないことが予想されますが、試行錯誤の過程では「成功」「失敗」は等しく価値があることと思います。上手くいった点はもとより上手くいかなかった点に関することも、同じく試行錯誤を続ける多くの人にとって有用なお話となるはずなので、活動報告の際には、ぜひ率直に、苦労話をお聴かせいただければと思います。

< 7-3 NPO法人砦・多摩川あそび村 >

- ・つながりラボの助成は、計画時には考えも及ばなかったような、新しい必要性に基づいた活動を、柔軟に行えることに特徴があります。活動の中で、特に子どもたちの声に耳を傾け、その後ろにいるであろう大人た

ちの声にも耳を傾け、新しい「交流」を作り出していただければと考えています。

< 7-4 一般社団法人ななつのこ >

- ・コミュニティカフェを現在の運営団体から、地域住民・団体が主体の運営団体に移譲する動きは、非常に興味深いです。ファンドにも、既に多くのななつのこを拠点とする地域団体の活動が申請されていることなどからも、中間支援的な機能がある、より良い場になっていることがわかります。これを機に、更なる地域への繋がりや広がりを期待します。
- ・なお、運営団体が変わるということは、プラスにもマイナスにも見えるものです。引き継ぎに至った思いなどを、関係者以外にも素敵に見えるように伝えて、プラスにしていきたいと思います。

< 7-5 祖師谷子育てネットワーク「そこだね」 >

- ・活動内容が異なり、拠点となる場所も十数分の距離がある団体が、理念を共有しその距離を活かして、インクルーシブな地域を創出していこうとする試みに期待を感じます。新しいまちづくりのモデルとなるよう頑張ってください。活動報告を楽しみにしています。

< 7-6 一般社団法人グリーフサポートせたがや >

- ・つながりラボの助成は、計画時には考えも及ばなかったような、新しい必要性に基づいた活動を、柔軟に行えることに特徴があります。活動の中で考えている「顔の見える関係性をつくる」「フォローアップする」の2つの段階においてつくられるであろう、新しい他者との関係の中から見出される問題や可能性にじっくりと耳を傾け、その問題を解決し、可能性を育てるように活動をいただければと考えています。

< 7-7 岡さんのいえ TOMOの会 >

- ・課題として来た庭の構造の改修により、更に地域に開かれた場にと、具体的な活動の広がりがイメージできました。地域で岡さんのいえを必要とするさまざまな方が改修ワークショップに関わり意見を出したことにより、完成を楽しみに待つ気運も高まっていることと推察します。地

域の公的機関の方も名を連ねてくださっていることから、地域での岡さんのいへの存在感を象徴しているように感じました。今後の「まちの井戸端」への進化に期待します。

< 7 - 9 一般社団法人おやまちプロジェクト >

- ・福祉施設や病院など専門家のところまで行ってケアや治療を受けるのではなく、「自ら情報を得ることが出来ず困っている人たちがたまたま買い物した時にたまたまタタタハウスで開催されていた暮らしの保健室出会う」といった老若男女がケアに偶然出会うまちを設計していることが秀逸だと思いました。